

結腸切除術 入院診療計画書(患者様用)

患者氏名 \_\_\_\_\_ 様 病室: \_\_\_\_\_ 号

特別な栄養管理の必要性  有  無

\*この入院診療計画書について、医師・看護師から説明を受け、ご理解されましたら、署名をお願いします。

病名	
症状	
手術	結腸切除術(閉塞症状がないもの)
推定入院期間	14日間

主治医: \_\_\_\_\_  
看護師: \_\_\_\_\_

在宅復帰支援担当者名: \_\_\_\_\_  
在宅復帰支援計画:必要時、立案いたします

患者署名: \_\_\_\_\_  
記入者(続柄): \_\_\_\_\_

\*本人記載が困難な場合”記入者”の欄の記載をお願いします

月日 暦日	手術前日	手術当日	術後1日目	術後2日目	術後3日目
達成目標	1. 手術の概要、入院中のスケジュールが理解できる 2. 手術前の不安や疑問を伝えることができ、手術に向けて心身ともに準備が整う 3. 疾患や手術に対して理解できる	1. 手術後の全身状態が安定している 2. 痛みがある時に伝えることができる 3. 創部やドレーンからの出血がない	1. 病棟内を歩行できる 2. 痛みがある時に伝えることができる 3. 創部やドレーンの排液異常や出血がない 4. 創部に発赤・腫脹がない 5. 体温が38.0℃以下である 6. 飲水を開始できる 7. お腹の張りや吐き気、腹痛がない 8. リハビリを開始できる	1. 病棟内を歩行できる 2. 痛みがある時に伝えることができる 3. ドレーンの排液異常や出血がない 4. 創部に発赤・腫脹がない 5. 体温が38.0℃以下である 6. 食事を開始できる 7. お腹の張りや吐き気がなく、排ガスがある	1. 病棟内を歩行できる 2. 痛みがある時に伝えることができる 3. ドレーンの排液異常や出血がない 4. 創部に発赤・腫脹がない 5. 体温が38.0℃以下である 6. 食事を開始できる 7. お腹の張りや吐き気がなく、排ガスがある
治療	○飲んでおられるお薬がありましたら看護師までお知らせください  ○午前中:臍の処置を行います ○入院後より下剤を内服します(マグコロール、ピコスルファートナトリウム液) ○入院当日の午後 大腸カメラ予定(あしな) 	〈術前〉 ○指示の薬の内服 ○午前中より点滴を行います(左上肢) ○手術室に行く前に術衣に着替えます ○弾性ストッキングをはきます 手術室へ歩行か車椅子で入室します 〈術後〉 ○手術室より尿管が留置されています ○深部静脈血栓予防のため両足に血栓予防の機械を装着します ○病室で酸素マスク、心電図モニター、血圧計を装着します 〈治療項目〉 ○術後、点滴があります ○手術翌日の午前中まで痛み止めの点滴を行います 	○医師の許可が得たら酸素マスクや心電図モニター、血圧計を除去します ○血栓を予防する機械と弾性ストッキングを外します ○尿管を抜去します ○点滴は4本あります(24時間) ○お腹の調子を整えるお薬(内服)がはじまります(7日間)	○点滴は4本あります(24時間)	○点滴は4本(24時間)あります 
検査	○身長・体重の測定をします ○リハビリスタッフによる身体機能検査と術後のリハビリ説明を行います。		○朝に採血があります ○午前中に病室で胸部と腹部のX線撮影があります 	○朝に採血があります ○午前中に腹部のX線撮影があります	○朝に採血があります ○午前中に腹部のX線撮影があります
看護計画	食事	○昼食より絶食となります。 ○飲水は手術当日の朝9時まで可能です	○朝9時以降より絶飲食です(内服は6時頃に、医師の許可が得た薬剤のみを飲んでください)	○医師の指示確認後、水分摂取を開始します	○医師へ確認後、昼食より食事を開始します ○食種は消化器術後食流動食です
	活動	○病院内歩行可(行き先は看護師に教えてください)	〈術前〉○病棟内歩行可 〈術後〉○ベッド上安静	○病棟内歩行可 ○リハビリ開始:リハビリスタッフによる動作指導を行います。	○病院内歩行可
	清潔	○入浴可 ○臍の処置を行います ○臍の処置後入浴してください		○清拭(看護師が手伝います) ○病衣、腹帯の交換	○清拭(看護師が手伝います)
指導説明	○入院時のオリエンテーションを行います ○主治医から手術・治療の説明があります(入院診療計画書、手術・麻酔・輸血の同意書)  ○手術室の看護師の訪問があります ○手術のパンフレットを使用して手術の注意点について説明します ○看護師が手術の必要物品の確認をします ○各種同意書の提出をお願いします	〈術後〉 ○痛みが強いときは我慢せずに教えてください ○深部静脈血栓予防のために、ベッド上で足を曲げたり伸ばしたり、足首を動かしてください(ご自分でできないときは看護師が手伝います)  ○手術室に持参する物品をお預かりします	○少しずつ体を動かしてください ○看護師が付き添いますので、少しずつ歩いてください ○痛みが強いときは我慢せずに教えてください	○痛みが強いときは我慢せずに教えてください	○痛みが強いときは我慢せずに教えてください ○食事摂取の方法と注意点をパンフレットに沿って看護師が説明いたします
観察	○痛みや吐き気など気になることは遠慮なくお知らせください ○入院時に栄養評価を行い、必要な方には栄養指導を計画します  ○1回午前中に検温に伺います 	〈術後〉 ○看護師が以下のことを確認します ・血圧、体温 ・創部の発赤や腫脹 ・痛みの程度 ・お腹の音やお腹の張り ・お腹の管や胃管の排液量と性状 ・息苦しさや肺の音 ・両足の皮膚の色、痛み、しびれ感、むくみの有無	○看護師が以下のことを観察します(6・10・20時) ・血圧・体温 ・創部の発赤や腫脹 ・痛みの程度 ・お腹の音やお腹の張り ・お腹の管の排液量と性状 ・息苦しさや肺の音 ○最初にベッドから離れるときは看護師が付き添います ○歩行時にめまい、ふらつき、冷や汗、胸部痛、気分不良、息苦しさがないかお尋ねします	○看護師が以下のことを観察します(6・10・20時) ・血圧・体温 ・創部の発赤や腫脹 ・痛みの程度 ・お腹の音やお腹の張り ・お腹の管の排液量と性状 ・息苦しさや肺の音	○看護師が以下のことを観察します(6・10・20時) ・血圧・体温 ・創部の発赤や腫脹 ・痛みの程度 ・お腹の音やお腹の張り ・お腹の管の排液量と性状 ・食事の摂取状況や摂取後の腹痛や吐き気などの観察

注1)入院後の検査・治療・看護などは大体このスケジュール表通りに行われることになります。ただし、年齢や合併症の有無、その他の理由で個人差が出てきますので予定通りにならないことがあります。

ご自分のペースに合わせて、この予定表を目安に、主治医・担当医・主治看護師などと相談しながら検査や治療を受けられてください。

注2)入院期間については、現時点で予想されるものです。

暦日	術後4日目	術後5日目	術後6日目	術後7日目	術後8日目～術後10日目	術後11日目	術後12日目	
達成目標	1. 痛みがある時に伝えることができる 2. 体温が38.0℃以下で、創部の発赤・腫張がない 3. ドレーンの排液異常がなく、ドレーンを抜去できる 4. お腹の張りや吐き気がなく、排便・排ガスがある 5. 食事を摂取できる 6. 排便コントロール方法が理解できる				1. 痛みがある時に伝えることができる 2. ドレーンの排液異常がなく、抜去ができる 3. 創部の発赤・腫張がない 4. お腹の張りや吐き気や腹痛がなく、排便・排ガスがある 5. 食事を摂取できる 6. 排便コントロール方法が理解できる		<b>【退院基準】</b> 1. 創部に発赤・腫張がない 2. お腹の張りや吐き気、腹痛がない 3. 排便・排ガスがある 4. 排便コントロール方法が理解できる	
治療	○点滴は4本あります (食事摂取量に応じて点滴終了となります) ○医師の判断にて、お腹の管を抜去します				○創部の異常がなければ、医師にて創部の抜鉤を行います		○次回外来日のお知らせをします	
検査	○朝に採血があります 							
看護計画	食事	○食種は消化器術後食3分粥です	○食種は消化器術後食5分粥です	○食種は消化器術後食全粥です	○食種は米飯(常食)です			
	活動	○病院内歩行可					○退院時リハビリ指導を行います。	
	清潔	○医師の診察の結果、術後4日目以降にお腹の管が抜けます。管が抜けたら、シャワー浴ができます。(必要時防水テープを使用します)						
指導説明	○痛みが強いときは我慢せずに教えてください ○看護師より排便コントロール方法について説明があります ○栄養士による食事指導を受講します(1回目)	○痛みが強いときは我慢せずに教えてください ○シャワー浴初回時は方法を説明いたします  ○傷口のつっぱりや気になる症状がありましたら、医師に相談してください			術後10日目 ○看護師が退院指導を行います ・腸閉塞兆候と症状出現時の対応について ・日常生活における注意点	○栄養士による食事指導を受講します(2回目)	○退院後の生活について聞きたいことがありましたら、いつでも看護師に声をおかけください	
観察	○看護師が以下のことを観察します(10時) ・血圧・体温 ・創部の発赤や腫張 ・痛みの程度 ・お腹の音やお腹の張り ・お腹の管の排液量と性状 ・食事の摂取状況や摂取後の腹痛や吐き気などの観察 ・お腹の管が抜けた場所の創部の状態 ・排便状況				○看護師が以下のことを観察します(10時) ・血圧・体温 ・創部の発赤や腫張 ・痛みの程度 ・お腹の音やお腹の張り ・お腹の管の排液量と性状 ・食事の摂取状況や摂取後の腹痛や吐き気などの観察 ・お腹の管が抜けた場所の創部の状態 ・排便状況			